

令和7年7月31日

総務文教委員会

阿久根市議会

1 会議名 総務文教委員会

2 日時

(1) 期日 令和7年7月31日(木)

(2) 開会 午後1時32分

(3) 散会 午後4時6分

3 場所 第2委員会室

4 出席委員

川原 慎一 委員長

竹之内 和満 副委員長(午後1時36分遅参)

大田 基次 委員

白石 純一 委員

木下 孝行 委員(午後1時32分遅参)

牟田 学 委員

5 欠席委員

大野 雅子 委員

6 職務のため出席した議会事務局職員

上脇 重樹 次長兼議事係長

7 説明員

富永 賢吾 企画推進課長

岩下 亮一 企画推進課長補佐兼企画政策係長兼統計調査係長

8 会議に付した事件

所管事務調査について

9 議事の経過概要 別紙のとおり

審査の経過概要

◎ 所管事務調査について

川原慎一委員長

ただいまから総務文教委員会を開会します。

本日は、所管事務調査事項とした洋上風力発電と移住定住促進策について、所管課に出席していただき、本市の現状説明を受け、質疑を行います。

〔木下孝行委員入室〕

所管課の企画推進課は入室してください。

〔企画推進課入室〕

○ 洋上風力発電について

川原慎一委員長

それでは、所管事務調査事項のうち洋上風力発電を議題とします。

洋上風力発電の本市の現状について所管課に説明を求めます。

富永企画推進課長

洋上風力発電につきまして、企画推進課のほうから説明させていただきます。

洋上風力発電についてですが、国の第7次エネルギー設計基本計画におきまして、風力発電は今後の導入拡大が期待されており、特に洋上風力は、大量導入やコスト低減が可能であるとともに、経済波及効果が大ききことから、再生可能エネルギーの主力電源化の切り札として、推進がしていくことが必要であるとされているところです。

その洋上風力発電につきましては、海洋再生可能エネルギー発電設備の整備に係る海域利用の促進に関する法律、いわゆる再エネ海域利用法になりますが、こちらに基づきまして、国が洋上風力発電の開発を認める促進建築区域を行った上で、公募により事業者を選定する流れとなっております。

また、促進区域の指定に当たりましては、国が都道府県等から情報収集を行った上で、関係自治体や利害関係者等で構成される協議会において合意形成を経ることなどの手続が定められております。

そして、都道府県から国への情報提供に際しましては、促進区域として想定される区域の気象などの自然的条件、漁業への支障などの情報に加え、利害関係者を特定し、協議を開始することについて、同意を得ているかなどの情報が必要とされております。

北薩沖では、2事業者が事業計画を有していると関係漁業等に説明し、協議、調整等を進めているというところで承知してございますが、この間、鹿児島県を主体として設置されました本市を含む関係市町などで構成する洋上風力発電に関する研究会におきましては、薩摩半島西方沖における国への情報提供の可能性のある地域について、検討を重ねてきており、本年4月にいちき串木野市沖の区域、共同漁業権内につきまして、国に対し情報提供が行われたところでございます。

洋上風力発電につきましては、これまでの市議会定例会一般質問におきまして、西平市長も、事業もたらす雇用や税収などの経済波及効果は、地域の稼ぐ力の向上につながるものと認識を示されております。

このことから、市としては、県や関係市町など関係機関との連携強化と、利害関係者で

ある北さつま漁協との丁寧な対話に努めながら、洋上風力発電への理解、浸透を図ることとしており、その一環といたしまして、8月18日には市主体の勉強会を開催する予定でございます。

〔竹之内和満委員入室〕

引き続き、これら関係機関との情報共有と緊密な連携に努めてまいりたいと考えております。

以上で説明終わります。

川原慎一委員長

所管課に現状を説明していただきました。

ただいまの説明に対する質疑を行います。

質疑ございませんか。

木下孝行委員

今、最後のほうで、8月18日に勉強会を開催するという話がございましたけども、その勉強会は、どういう方たちに参加を求めて、どういった話を基本的にしていくのか。ちょっと内容を教えてもらえますか。

富永企画推進課長

8月18日の勉強会についての内容についてのお問合せかと思いますが、こちらの勉強会は北さつま漁協の組合員の方を対象としております。

内容につきましては、まず制度の理解をしていただくというところが第1というふうに考えておりまして、鹿児島県へのエネルギー対策課のほうに講師ですね、をしていただきまして、制度の概要であったり、基金であったり、そういったところの内容について説明いただく予定としております。

また、専門の講師の方をお招きいたしまして、洋上風力と漁業の協調に関するテーマについて講演をいただく予定としていただいております。

おおむね2時間程度と予定しておりまして、場所は阿久根市の風テラスあくねの大ホールのほうで予定しているといったところになってございます。

〔木下孝行委員「はい、いいです」と呼ぶ〕

白石純一委員

今の件についてですが、講習の方はどういう方かとですね。例えば我々も傍聴できるのか、その辺も教えてください。

富永企画推進課長

講師の方につきましては、現在調整中というところでございますが、依頼しておりますのは、一般社団法人のほうに御依頼をさせていただいております、失礼しました。ちょっとお待ちいただければ、名前を確認いたします。

川原慎一委員長

どうぞ、いいですよ。

〔上協議会事務局次長兼議事係長「1問1答で。2問おっしゃったので」と呼ぶ〕

まず講師のほうからお答えをください。

富永企画推進課長

失礼いたしました。

講師のほう、お答えいたします。

一般社団法人海洋産業研究振興協会、塩原部長に講師を務めていただく予定としております。

川原慎一委員長

あと、傍聴ができるかどうかを。

富永企画推進課長

傍聴のほうは、現在、組合のほうに、理事会のほうに届けさせていただきまして説明をした中では、組合員を対象という形で御説明しておりますので、まずは組合の方に市議の方の傍聴が可能かどうか、そこに合意をいただけるかというところを伺って、それで可能であれば、お招きできるかとは思っておりますが、現状は組合員対象という形になっておりますので、難しいかなというふうには思っております。

白石純一委員

市民も傍聴できるかどうか、もし可能であれば、伺って確認をして、教えていただければと思います。よろしくお願いします。

川原慎一委員長

要望ですか。

白石純一委員

要望です。

それと、一般社団法人、すいません、お名前。海洋産業振興協会でよかったですか。

富永企画推進課長

早口で申し訳ございません。

一般社団法人海洋産業研究振興協会、塩原様になっております。

木下孝行委員

洋上風力を、当然、推進しながら、来年の5月の情報提供に間に合うように、住民の説明など等々を玉名漁協の理解を求める方向でいきながら、5月の情報提供を間違いなくできるように進めてもらいたいなという意見を持った1人なんですけども。漁協のほうも、6月20日に組合長が変わったということで、現、新しい組合長は、洋上風力に相当な理解を持っていらっしゃるということも、確認が、私のほうもできております。

そういう中では、今回の18日の勉強会も受入れていただいたものと思っております。

こういう、当然、結局1番地元の事業においては、直接関係団体ということで、ここの理解が1番大事なんですけども、やはり市民のほうにも、それなりの説明であったりとか、理解を求める活動というのは当然必要だと思うんだけど、そのあと、8月18日以降にそういった計画も入れ込んで、いかなきゃいけないだろうと思うんですけども、そういった考えをもう既に持ってるかと思いますが、その辺はどうですか。

富永企画推進課長

8月18日の勉強会以降の日程、計画についてどのように考えているのかということでの御質問かと思います。

内容といたしましては、まず、漁協の組合の方に理解していただくというところが第1というふうに考えております。

18日にどれくらいの組合の方が参加いただけるのかっていうところと、どれくらい御意見、反対・賛成はその場では、もう当然申し上げないとは思っているので、どう考えられるのかというところを、また漁協のほうで判断いただくというところは必要になってくるかなと

思います。

ただ、1回だけで今後説明会終了というふうに思っておりませんで、何回か、勉強会というところはさせていただきたいというふうに考えております。

市民向けへの周知等につきましては、いちき串木野市の例が参考になるかと思いたいで、いちき串木野市さんの事例をヒアリングしながらですね、どのように対応していったのかというところを聞き取って、阿久根市のほうで、適用できる部分あるかと思いたいで、そこの辺の事例を見ながら考えていきたいというふうに考えているところです。

木下孝行委員

今後も、できる限り多くの方々に洋上風力の理解を求める説明会等々を開催していただくよう、ここでまた、改めてお願いをしますし、今後、我々議員連盟のほうも、これまだ予定ですけども、11月からそのぐらいに、北九州の響灘の洋上風力がほぼその頃に完成をするということで、議員連盟のほうでもそこに参加をして、ちょっと調査研究をしてこようかなというふうに思っておりますし、また今回、この総務文教委員会でも、ここに調査事項で上げてますように、ほかのところの調査研究もしてこようと思いたいます。

それは当然、情報提供を前提として、そのあとの進め方であったりとか、いろんな話を、また、去年秋田にも行ってきまして、固定資産税の話とかですね。漁業への対する影響があるない、またそのほか、商工業に対する貢献もあるかないか、そこらも含めて、もう間違いなく固定資産税は確実に1基当たり5000万円秋田市に払ってると、事業者が、その確認もできましたし、事業始めて1年ちょっとですけど、漁業に対する影響はありませんと、漁夫からいろんなクレームも全くありませんと。

商工業の経済効果に関しては、大変大きな効果をもたらしておりますというようなことも確認をしてきておりますし、ぜひとも阿久根市には、この洋上風力が将来、消滅自治体にならないために人口減少をできるだけ抑えていく。そして、なおかつ財源を確保しながら、商工業の振興も図って、雇用も少しでも抑えていくという、これに直結するような事業であるということで、我々議員連盟もまたこの委員会も、今からまた努力していきたいと思いたいますので、所管課のほうもより積極的に行動していただけるように、ここはお願いとして、終わります。

白石純一委員

説明会なんですけど。8月18日の漁協もオーケーということで進められているということですのでよろしいですか。

富永企画推進課長

7月の25日に、理事会のほうに私と補佐で説明しに行ってまいりまして、そちらのほうで、組合長は大丈夫ということで確認はできておりますし、また、組合員の方にも周知いただくように御依頼をさせていただいているところでございます。

当然、実際仕事をされる方もいらっしゃいますので、全員が出れるというところは確約ができないところにはなるんですけれども、周知いただけるというところで御理解いただいたというところでございます。

白石純一委員

カレンダーを見てみるとですね。大分もう三日月なんですよね。満月とかであれば、漁業の組合員の方も出やすい、漁を休んで出やすいと思うんですけれども、そういうカレンダーのことも考慮してのことなんでしょうか。

富永企画推進課長

ちょっと漁業のところの部分につきましては、朝帰ってきて、お昼であれば出るというところで、広く時間をとって設定したところでございまして、満月になってくると、また、会場との兼ね合いもなかなか難しい部分がありましたので、最終的にそのすり合わせの結果が18日になったというふうに御理解いただければと思います。

白石純一委員

利害関係者を特定するということで今、北さつま漁協が利害関係者に特定されているわけですが、それ以外の利害関係者ということは考えられなかったということでしょうか。

富永企画推進課長

それ以外の利害関係者につきましては、県の研究会のほうですね、そちらのほうを参考にさせていただきまして、ありがたいと思います。海砂利ですね、海砂の採取をされてる業者様がいらっしゃいますので、その団体様が、ほかに利害関係者とすれば、上げられるかなというところになってきております。

県の研究会のほうでも、漁業関係者か、この砂を採取される方の2事業者が来られているといった状況になっていますので、そのように考えてよろしいかと思っております。

白石純一委員

観光に関わる方々は利害関係者ということにはならないという、県も市もそういう理解でよろしいでしょうか。

富永企画推進課長

そうですね、観光に関する部分につきましては、現在、県の研究会のほうには呼ばれていないというところになっております。

当然、観光地であれば、風車、見えたときの話というのは出てくるのかなというふうに思うところではありますが、当然、そこにつきましては、市民説明会等したときにそういった話が出てくる可能性もありますし、まずはどこに設置するという議論もできてない状況もありますので、そこは体制を見ながら議論を踏まえて、関係する団体についてはお声掛けする等が考えられるかと思えます。

白石純一委員

そういう特定の漁協もそうですけども、観光の団体等に加えてですね、1番の利害関係者というのは、私は市民も大きな部分があると思うんですが、その辺りを、全国的に見られて、市民をどういう形で、その市民は利害関係者じゃないんだと、市民からはヒアリングとか意見は聞くけれども、利害関係者ということにはならないんだという理解なんでしょうか。

富永企画推進課長

洋上風力っていう形になりますので、その周辺に住んでいらっしゃる方は余りいらっしゃらないという認識でございます。なので、1番は、1番の利害関係者は、いわゆる漁をされる方、漁業関係の方になってこようかというふうには考えております。

陸上風力と違うところは、洋上風力というところはそういうところがありまして、利害関係者ではないというふうに断定はできないところではありますけれども、御意見は当然ながら伺っていく必要性はあるというふうに考えております。

〔白石純一委員「はい、了解です」と呼ぶ〕

川原慎一委員長

ほかに御質疑ございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、以上で本市の洋上風力発電の現状説明に対する質疑を終わります。

○ 移住定住促進策について

川原慎一委員長

それでは、所管事務調査事項のうち移住定住促進策を議題とします。

移住定住促進策の本市の現状について、所管課に説明を求めます。

富永企画推進課長

それでは、移住定住の施策について、御説明させていただきます。

移住定住の促進策につきましては、さきの令和7年第2回市議会定例会で議決いただきました令和7年度から11年度までを計画期間とするまちづくりビジョンに基づき、移住定住促進施策をはじめ、地方創生のための施策を効果的に展開していくこととしております。

国全体におきましても、人口減少に歯止めがかからない状況の中ではありますが、人口減少の流れを少しでも緩やかにしていくための社会減対策、特に若年層や女性に選ばれるまちづくりを進めていくことが重要であると認識しております。

これまで市としましては、移住定住策として、子育て世帯移住支援補助金事業や、都市圏での開催される移住イベントへの出展、空き家バンク制度の充実や空き家、空き店舗活用事業の推進、さらには、さきの令和7年第2回市議会定例会で議決いただきましたお試し移住体験住宅の整備に向けて取り組んでいるところでございます。

そのほか、子供子育て支援のさらなる充実を図るため、保育料完全無償化、また、雇用関係の施策といたしましては、地元人材雇用支援奨励金事業、地域おこし協力隊を活用いたしました若者の雇用及び起業促進などを目的とした取組、地元企業就職者賃貸住宅家賃支援補助事業など、主に若年層の人口増加につながる対策の充実に取り組んできたところでございます。

今後におきましても、まちづくりビジョンに記載しておりますとおり、人材、雇用の確保、観光の振興、ふるさと納税のさらなる推進、番所丘公園や青果市場跡地の活用事業などを通じた交流の促進とにぎわいの創出など、広く公民連携により取り組むとともに、市民の皆様にも情報を共有しながら、これらの取組の推進を図ってまいりたいと考えております。

そして、施策の検証を行い、市が直面する課題を的確に捉え、人口減少の抑制につながる施策を継続して取り組むとともに、交流人口や関係人口を増やすための取組を積極的に推進し、まちの魅力を高めながら、将来的な移住定住のきっかけづくりに取り組むなど、より効果的な事業展開を進めてまいりたいと考えております。

以上説明になります。よろしくお願いいたします。

川原慎一委員長

所管が現状を説明していただきました。

ただいまの説明に対する質疑を行います。

質疑ございませんか。

竹之内和満委員

地域おこし協力隊の移住定住に関する活動というのは、具体的にはどのようなことを

やっているのでしょうか。

富永企画推進課長

企画推進課のほうで空き家バンクに登録いただける空き家ですね、そちらのほうの開拓をしていただくために、地域おこし協力隊のほう1名雇っておりまして、その方によってですね、説明会であったりだとか、空き家の探索であったりとか、そういうふうなのを行っております。

また、そのほか地域おこし協力隊につきましては、商工観光課にはなっておりますけれども、まちの灯台において、空き家バンクの相談窓口等に対応いただいたりしているところな状態でございます。

竹之内和満委員

それ、地域協力隊の3人のうちの1人が、4人ですかね、1人が空き家バンク、それで専従というかそれに、それだけをやってるという形でしょうか。

富永企画推進課長

説明をもう少し加えますと、当然、移住定住のイベントにもいただいて、実際に地域おこし協力隊の方も、こちらのほうに住んでおりますので、県外から来ていただいているというところも交えながら、阿久根市の住み方であったり、パンフレットも地域おこし協力隊員がつくりましたので、その説明であったりとか、どういうところが魅力であったりとか、そういうところの情報発信もいただいております。また、SNSとかでの情報発信等もいただいているといったところでございます。

ほかの地域おこし協力隊につきましては、国際交流の関係で来ていただいたりとか、それぞれ役割はありますが、阿久根の魅力を発信していただいているという点においては、広く、移住定住の促進の活動していただいているというふうに捉えてもいいのかなというふうには思います。

竹之内和満委員

はい、了解しました。

もう一つなんですが、移住イベントというのはどのようなイベントで、どこで開催されるのでしょうか。

富永企画推進課長

移住定住イベントにつきましては、市でやっているものもありますし、今年からは、すいません、県でやってるものもあるんですが、今年から市で、独自で開催するイベントもしておりまして、6月の28日になるんですけれども、東京のほうで、移住セミナーという形でセミナーを開きまして、先ほどの地域おこし協力隊の子と、うちの企画推進課の職員というところが東京の移住希望者向けのセミナーを行っているといった形になります。

またそのほか、東京都内で開催される移住交流イベントもございまして、9月、11月にそれぞれ大きな移住イベントがあるんですけれども、そちらのほうにも阿久根市として出展をして、阿久根市の魅力を発信していくというところを考えております。

また、県のイベントといたしましては、大阪のほうで、10月にイベントを予定しているというところでしたので、そちらのほうにも、阿久根市として参画いたしまして、情報発信をしていきたいというふうに考えているところでございます。

白石純一委員

ただいま話題に上りました6月に東京で行った市独自のイベント。具体的に成果、どれ

ぐらいの方が参加されて、強い興味とか、あるいは、阿久根に来てみたいとか、そういった何か反応があれば教えてください。

富永企画推進課長

ちょっと今、手元に資料はないんですけれども、10名程度の方に来場いただいたというところで、もともとその地域おこし協力隊で今移住定住で来ていただいている方も、県外から来ていただいているところもありまして、その方の声かけもありまして、気になっている方がいらっしゃる。そういったところで承知してるところです。

感想につきましては、なかなかその場で即決というところにはならないかなというところになるんですけれども、我々が作っております移住定住のパンフレットですね、こういったものとかもお配りして周知のほうを図られたと。手元に資料が残っていますので、気になるというところであれば、さらに企画推進課のほうにお問合せいただいて、移住定住につなげていくというふうなところも考えております。

白石純一委員

お試し住宅ですか、の進捗状況を教えてください。

富永企画推進課長

お試し移住住宅につきましては、市内の一軒家を借りまして、そちらのほうに最大1か月というところで住んでいただくというふうな事業になっております。

現在、市内の事業者の方から情報はいただいているところでして、いわゆる転貸に近いような状態になりますので、貸出し可能な一軒家といったところの情報を収集しているという状況でございます。

現在、お試し住宅につきましては、市のホームページで一般公開するということになりますので、物件の状態が良好であったりとか、住んでない場合は市が管理する、住んでいらっしゃる場合は体験移住者の方が管理するというふうな形になりますので、管理しやすい物件ですね、そちらのほうは、どれなのかというところを今選定している状態でございます。まして、予算の限りもありますので、予算の範囲内で、いただいた情報の中から選択していくというふうなところで考えてございます。

白石純一委員

移住住宅の候補として探しておられるのは、市街地中心部なのか、あるいは郊外部なのか、その辺りはいかがですか。

富永企画推進課長

現在、今考えていますのは、市街地というところで考えております。といいますのも、生活する上で、お店だったりとか、一応車で行ける範囲内にあるところというところで選ばせていただいております。当然阿久根全体のほう、見ていただきたいというふうに思っているんですけれども、まずは、生活拠点としては余り郊外過ぎると、ちょっと生活が不便だなと思って帰ってしまうような感じになると、またそれもいけないかと思っておりますので、まずはどんな方が来られても、まずは生活できるというところを重点に考えまして、車で移動できる範囲内の拠点というところで考えて、当然そこを拠点としていろんな阿久根の魅力あるスポットをめぐるいただいて、もうこれだったら郊外に住もうとか、そういった実際に住む段になったら、まさに郊外の家を借りたりとか、いやもうやっぱり市街がいいということであれば市街の家を借りたりとか、そういう判断ができるような形で考えておりまして、そのような基準で、今のところは市街に近いところで家を探すといっ

たところでやっております。

白石純一委員

私も都心に住んでいた経験から見ますとですね、都会の方っていうのは、車は持っていない、あるいは免許を持っていない、あるいは持ってもペーパードライバーの方が非常に多くてですね。必ずしも、もちろん、移住してこられたら、車、ほぼ確実に必要になると思うんですけども、今都会にお住まいの方は車を運転される環境にはない方も非常に多いと思いますので、その辺りも十分考慮すべきかなあと思います。

もう1点お伺いしたいのは、移住定住ということに関しまして、私は、大きく分けて二つ、IターンかUターン、あるいは孫ターンといった形に、二つに分かれると思うんですけども、その辺り、やはりターゲットが異なっておりまして、そのターゲットが異なるとアプローチの仕方、戦略も変わってくると思いますので、その辺りは念頭にあられるかどうかを教えてください。

富永企画推進課長

今のUターン、Iターン等の部分を考慮しながらされているかというところでございます。

当然Uターンのほうが鹿児島に住んでいた経験がえられる、もっと言えば、市内に住まれている方が帰ってくる可能性が高いかなというふうに考えておりますが、そこにつきまして、今取り立てて、IターンだUターンだというところで切り分けて戦略を立てているというところはしていないような状況でございます。

鹿児島県のほうでも、例えばUターン、Iターン就職について旅費を出すという補助の施策なんかもやっておりますので、そちらのほうも使っていただきながら、できれば阿久根市のほうに来ていただけるというようなところでやっていければと。また、就職会、企業説明会だったりとかいうところも東京圏内でやったりとかいうのもありますので、そういった機会に、こういう旅費の補助もあるよといったところも紹介していければ、そういうIターンなり、Uターンなりの希望する方もですね、来やすくなってくる、受験しやすくなってくるのかなというふうには考えているような状況でございます。

白石純一委員

今ですね、どの都道府県、全国1,700の自治体、都会を除いてですね、ほとんどの自治体がIターンUターンしてもらいたいと、移住定住をやろうとしてるわけですね。

その中で、IターンUターン、特に区別しないんだとか、県の施策に準じるんだとか、ということだと非常にぼやっとしてですね、なかなか特徴が出づらいのではないかと思いますので、その辺やっぱり、UターンとIターン、しかも、IターンでもUターンでもそれぞれその中でも、特定のセグメントとかターゲットを絞らないと、なかなか戦術のうちようもないと思うんですね。それはマーケティング手法ですけど、そういった辺りも今後精査すべきかなあという意見だけ申し添えさせていただきます。

最後の質問ですけども、本日からと思う、昨日だったのかもしれませんが。ネットで拝見した、本日、私、だったんですけども、大東建託さんが毎年、住みたいまちという発表をランキング発表されています。県内で13位まで見れたんですけども、その中には阿久根市は入っていない、必ずしも交通至便の地ではない、南さつまとか南九州とか大崎町とか、そういったところは、ベスト13にも入ってるところもございます。

それを見ると、阿久根市もそういったランキングに入る余地は十分可能性はあると思う

んですが、その辺りの調査、あるいは分析はされてますでしょうか。

富永企画推進課長

私も今日の、今朝、新聞で、住みたいまちランキングのほうを見て早速インターネットで調べたんですけど、やはり、議員のおっしゃるように入ってなかったというところで、魅力はあるというところは当然、私もこちらのほうに来て思っているところです。

あと発信力というところと、どういうふうに来て、まずは来てもらわないといけないんですけど、来てもらうかというところ。やはり、鹿児島市にしても阿久根市にしても、まだ来やすい、日置市にしても高速も通っててまだ行きやすい、通いやすいというところもございまして、当然交通の状態もあるかなというふうには思っております。

どのようにしたら来てもらえるのかっていうようなところにつきましては、我々もいろいろ工夫はしているんですけども、やはり情報発信、どのように魅力を見せていくのかというところが非常に大事かと。例えば、イベントだったり、ウニまつりもありますし、イセエビ祭りだったりとか、そういったところをもっとより売り込んでいって、いわゆる阿久根の特産品をめがけて人が来てくれるようになって、それに魅力を感じて、ここに住んでみようというふうになってもらえるような形で発信していきたいと。

当然交通の便が悪いので、阿久根市に住んで出水に通おうとか、阿久根市に住んで川内に行こうとか、そういうところは今ちょっと考えづらいといいますか、なかなか難しいのかなというふうなところもありますので、我々としては、まず阿久根市のほうに魅力を感じていただいて、ここに住みたいというふうに思っただく人をどれだけ増やせるのかといったところが勝負になってくるのかなというふうに考えております。

当然高速道路がどんどん出来てくればですね、状況も変わってくるかとは思いますが、それでも、現状でもそのように考えているといったところでございます。

白石純一委員

大東建託さん以外にですね、幾つかそういったランキングがたまに出てます。したがって、年間2～3本以上のそういうランキングがあると思うんですが、そうしたところ、例えばトップ10に入るとなかなか出てこないわけですが、その阿久根市の詳細について分析をその発信元に問い合わせですね、有料になるかもしれませんが、そうした分析を入手してですね、それをしっかり精査することによって、弱み、あるいはこれから伸びる伸び代が見えてくると思うんですけど、その辺りの調査分析は今までされてますでしょうか。

富永企画推進課長

そのような調査自体はしたことがないというところが正直なところでございます。

議員のおっしゃるように、どのような理由で好きになってもらうのかっていうところは、当然ながら必要になってくるかというふうに思います。おっしゃるように、データとしていただけるのであれば、有料でもいただけるのであれば非常に有益になってくるかと思えますので、その辺も施策の検討のしていく上で考えていきたいというふうに考えております。

〔白石純一委員「了解です」と呼ぶ〕

木下孝行委員

今の話の中にもちょこっと出てきておりますけども、所管課の話の中でも、情報発信、これをいかにしていくかが大事だというふうな話でございました。

私もまさにそこだと思います。

空き家の対策、空き家バンクの対策に関しても、移住定住の希望者に対しても、やっぱり阿久根という名前をいかに知ってもらって、そこの中の空き家の内容を、また、いかに魅力的に内容を公表できるか。例でいえば、住宅に菜園がついてますよと、そこで農業もできますよ、家庭菜園もできますよであったりとか、近くにどういうところがあって、どういう利便性がありますよという、今、現在やってるんだけど、そういう内容をもっと引きつけるような形での広告の仕方というかな、そういうのをやっていかんと、やっぱり阿久根というのをまず意識してもらわないかん、見てもらうという、そこに持っていかなきゃいかんのかなあと思うわけですね。だから、そこをもっと魅力的に何か磨いていくというか、そういう形をとっていけば、今よりも空き家バンクの成約率も上がるだろうと思うし、登録者も増えていくだろうし、また、応募する方も出てくるだろうと思うし、当然、そういうことがまたネットなんかで情報発信されていけば、拡散されていくわけで、そういうこともぜひ、取り組んでいるだろうけど、さらに磨きをかけてもらいたいなあと思うし、それに一つ答えてもらいたいというのと。

やはりメディアを何かこう使えないのかなと。結構今、民間の夕方6時の日曜日とか、移住定住した人たちの番組があったりとか、ああいうところにぜひ阿久根に移住した人に何かこう、メディアにつてを伝えて、阿久根に移住した人を取上げてもらうとか、そういうことがやっぱり阿久根という名前を上げていくには、いいのかなと。

この2点、ちょっと意見があれば、考えがあれば。

川原慎一委員長

ひとつひとつお答えください。

富永企画推進課長

まず、情報発信の強化のところにつきましては、地域活性化起業人ですか、という制度を総務省がしているんですけども、その制度を利用しまして、包括連携協定を結んでおります博報堂プロダクツさんから人をお招きしているといったところになっております。

その方とも連携しながら、どういう見せ方がいいのかというところを、今、まさに、関係課とですね、語りながらいただいているといったところになっております。そこで一つ、強化していけるかなというふうに考えております。

2点目のメディアにつきまして、有効活用できないかというところがあります。

こちら、当然、テレビだったりとか、SNSだったりとかというところもあるかと思います。先日もラジオの放送で脇本海岸のところが紹介されたりとかいうところがありますので、メディアは、露出が、全く使っていないというわけではなく、なかなか露出を増やしていく必要があるというのであれば、SNSのほうが有効的に使えるのかなというふうには思っているような状況でございます。

当然、テレビで取り上げられたりとか、ラジオで取り上げていただいたりだとか、その辺も有効的、効果的に活用しながら、メインは恐らくSNSでやるほうが露出も多くなってくるし、気に入った方は、それをフォローしながら、ほかの人にも共有したりとかいうところもできるので、そこら辺を主軸にしながらしていくのがいいのではないかなというふうには考えているところです。

全体的にメディアを活用しながらというのは議員の御意見のとおりかなというふうに思いますので、さらに磨きがかかるように、活性化起業人の方とも相談しながら進めて

いきたいというふうに思います。

木下孝行委員

ぜひその辺取り組んでもらいたいなというふうに思っておりますが。

もう一つですね、以前、もう10年ほど前ですかね、東京モノレールに乗ったときにですね、薩摩川内市が移住の広告を出していたんですよ。

だから、どのぐらいの費用がかかるのか、ちょっと私もそこは分かりませんが、ああいうのを見れば、やはり東京モノレール、1日何万人、何十万という人が使うわけであって、ああいう広告を載せるだけでも全然阿久根と、また、その阿久根のいいところも載せれば、こんなところなんだっていうインパクトは付くと思うわけですよ。

だから、何年も続けろとは言わないけど、1か月か、2か月か、3か月ぐらい、ああいうところに広告を載せるとか、そういう費用も関係するだろうけど、できる範囲であれば、そういうのも阿久根の知名度を上げるためには必要かなあと思ったりするんですね。

ぜひ、そういうことも、今後考えていってもらいたいなというふうに思います。

川原慎一委員長

ほかございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、私のほうから。

竹之内和満副委員長

それでは暫時、委員長の職務を行います。

川原慎一委員の発言を許します。

川原慎一委員

今メディアを使ったっていう質問等もございましたけれども、もう私今、これって、移住定住って、若い世代に対しての発信だと思っているんですね、となってくると、やはりSNSの活用が非常に大切じゃないかというふうに考えています。

例えば、インスタグラマーであったり、TikTokerであったり、そういったたくさんのフォロワー数をお持ちの方に対して、特化した形で阿久根市が移住定住に関して、そういった方々を使うというお考えというものはないのでしょうか。

富永企画推進課長

議員御指摘のいわゆるインフルエンサーを使った事業について、どのような活用が阿久根市のほうでされているかという形かなと思います。

当初、そのほうで、こちら商工観光課の所管になるんですけれども、インフルエンサーコラボプロモーション事業といったところを、現在、実施すべく事業者選定を進めているというふうに伺っております。なので、今後のそちらのインフルエンサーの方を活用しながら事業という、メディアのほうですね、SNSのほうを使って発信ができるのかなというふうに思っているところでございます。

まだ事業者等は決定していないというところでして、ちょっと事業の内容の詳細につきましても、事業者が決定してから詰まっていくのかなというふうに思っているところなんですけれども、議員の御指摘の部分につきましては、今年度実施しているというところで御認識いただければと思います。よろしくお願いします。

川原慎一委員

あとですね、Iターンで帰ってきた方が、例えば、空き家の改修というカリフォルムを

したいと、そういったときに、県からの補助金等のものはございますが、今まだ阿久根市独自のものというのが、今、切れている状況であるというふうにはちょっと御説明を聞いたことがあったんですけども、こういったものをまた今年度以降やっていく計画というものはないんでしょうかね。

富永企画推進課長

移住者の方向けの空き家改修の補助という形での制度がないのかどうかというところかと思います。

今のところですね、空き家バンクの利用促進事業というところが、令和7年度からの新規事業、実施をしております、そこで、空き家バンクに登録した物件につきまして、家財処分の補助、上限10万円で、助成率2分の1になるんですけども、があったりですとか、300万円以上の改修工事についてはなるんですけども、補助率5分の1で上限30万円というところを、移住だったり、子育て世代であれば、その上限を10万円ずつ伸ばしていくといった形での加算を設けて、支援をしていくといったところを実施している状況でございます。

川原慎一委員

結局、空き家バンクに登録が、例えばその親族であって、祖父母の方が持っていた建物に対して、そこがあるから今度帰ってきて、阿久根で住もうと、若い世代、私たち世代が自分たちの子供たちの世代に阿久根に帰ってきたときになって考えたときに、実際、じいちゃん、ばあちゃんが持っていたものだから、空き家バンクへの登録が、結局親族が使うものだからできないとなってくると、そういった補助金の制度が非常に難しい状況になる。

そういったことを考えたときに、やはり帰ってきて、阿久根に帰って住みたいという方がいらっしゃるんであれば、これを、いやだからもう帰ってこないよということではならないんですが、やはり帰ってくることによって、少しでも、リフォームを軽減できる、リフォーム費用軽減できるという部分を、やはり、つくっていくべきかなと私は思っているんですが、その辺りはどうですか。

富永企画推進課長

今おっしゃられたとおり現行の制度ですと、親族でのそういった利用については、財産形成に関わる部分になってくるので、ちょっと対象としてないというところがございます。

ただ実情としては、委員のおっしゃるとおり、Uターンだったり、帰ってきたときに、親の家を使ったりといったところは当然出てくるかというふうには思うんですけども、現行の、時点では、やはり財産形成につながるところが、純粹にそれだけというふうになれば別なんですけれども、また別の目的で使われたりとかいうところもありまして、過去、そのような形で空き家を持ってる方のみの対象にしたら、なかなか違う使い方をされた事案もあったものですから、そこについてはかなりの制度設計をしっかりとしなければちょっと難しいのかなというふうに思っております、特に親族間のやりとりになってくると、かなりセンシティブな部分になってきますので、そこを一般の人も御理解いただけるのかどうかというところも含めてですね、議論が必要になってくるのかなというふうに思っているような状態でございます。

川原慎一委員

どう市民にお分かりいただくかと、非常にこういうものは難しいところもありますので、やはり法律も絡んでくるものなので、ここは、条例等も含めてですよ、しっかりこちらの

ほうも行政としても考えて、そこの縛りというものをしっかりつけて、そういった御希望がある、またそういったことができればいいなっていう市民の御意見は、確実にありますので、そこも、頭の中においてこれから先の制度設計等を考えていただきたいなというふうに、これは要望で終わります。

竹之内和満副委員長

川原委員の質疑が終わりましたので、委員長の職務を川原委員長と交代いたします。

川原慎一委員長

それでは、以上で、本市の移住定住促進策の現状説明に対する質疑を終わります。

それでは、所管課は退室をお願いします。

〔企画推進課退室〕

この際、暫時休憩します。

(休憩 午後 2 時 26 分～午後 2 時 31 分)

〔企画推進課入室〕

川原慎一委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開します。

追加の質疑の申し出がございましたので、所管課にもう 1 回、お答えをいただきたいと思います。

木下孝行委員

以前企画推進課の担当する補助事業の中で、今回の空き家バンクの30万円以外に、ほかにまた今やってる事業があるのであれば、教えてもらえますか。

富永企画推進課長

過去、移住定住推進策として、空き家所持者の改修に対する補助というところをしてきたところでございますが、現状そちら廃止になってございまして、現在は空き家、先ほど御紹介した空き家バンク利用促進事業ということで、空き家バンクに登録された物件の改修等への補助というのがございます。空き家、空き店舗改修事業というものをつくってございまして、こちらですね、空き家を利用して事業を行う法人であったり、個人に対しまして、300万円以上の改修経費がかかる場合には、上限を200万円として改修の費用を補助するといったところがございます。

またこちら、市のプロジェクトと連動してあったりですとか、合併浄化槽の設置だったり、また移住だったり、店舗移転だったりとか、そういったところがあれば加算をするというところで、最大加算では500万円を加算できるというような設計になってございます。

こちらも利用をしていただけるような形での周知方法を努めていければというふうに考えております。

木下孝行委員

今、説明でありましたように以前、6年ほど前までは、空き家対策の補助事業として、確か上限200万円ほどの補助金があったと思うんですけども、そういう説明も今ありましたけども、終わってみればですね、その事業が、結構市民の方があの事業はよかったねという声が多く、我々も聞いておりますんで、今後、移住定住、IターンUターンの方々を引き寄せるには、そういう事業も今後また新たに検討してもいいのじゃないかなということ

ですね、担当課の皆さんにはもう1回またそういう議論も課内でしてもらいたいと思いますが、そこについてはどうでしょうか。答弁はいいです、検討してください。よろしくお願いします。

川原慎一委員長

以上で本市の移住定住策、現状説明に対する質疑を終わります。
この際、暫時休憩します。

(休憩 午後2時34分～午後2時46分)

○ 洋上風力発電について

川原慎一委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開します。

これを踏まえ、各委員は、洋上風力発電についての政策にどのような課題があると考えられたか、ここで発表していただき、それぞれのお考えを委員間で共有した上で、整理したいと思います。

それでは、指名しますので、それぞれ御発言をお願いします。

では、竹之内委員から。

〔発言する者あり〕

竹之内和満委員

洋上風力発電についてはですね、やっぱり利害関係者を含めた、どのような形でみんなが一緒になってやれたか、そういう、何だろう、反対意見がある中で、一緒にやるにはどうしたらいいかというのを、どのようにやったらいいかということを聞きたいですね。

特に串木野の場合は、市長さんが中心になってやったわけですけども、ただ川内、阿久根地区はなかなかそういうのがありませんので、やはり、漁協の反対が1番きついですので、ただちょっと変わってきつつありますので、そこら辺りがどのような形で、今やってるところはどういうふうな形でみんなの意見を集約したかというのをお聞きしたいかなというふうに思います。

川原慎一委員長

それでは牟田委員、お願いします。

牟田学委員

今話があったようにですね、私もやはり、協議、そしてまた組合員がどういうふうな形で同意をしたのか。その流れをですね、やはり把握したいと思っております。串木野でも情報提供の後にも、ちょっと漁業がくすぶるといういろいろな意見があったと思います。そこ辺りをやはり、どういった流れで組合員たちもそれに賛同したのかというところをちょっと調べてみたいと思います。

川原慎一委員長

木下委員お願いします。

木下孝行委員

私のほうは、もう調査研究を、視察をする目的とすれば、現在洋上風力の促進地域となって建設工事に入る直前、そういったところを視察させてもらって、いわゆる最初からの流れ、恐らく1番最初の流れ、情報提供をする前は恐らくどこの地域も漁業者等の直接利害関係者

は、なかなか判断を渋ってたところが大多数だと思うんですね。そういう中で情報提供にするに至っては、もう一応、法定協議会というそういう直接利害関係者も含めた、その地域の関係者、そういう人たちと一緒に協議をしていこうというそのスタートラインに臨むことに了解をしたということで情報提供がなされたわけで、そこら辺の過程も含めて調査研究視察をするべきだということで思っております。

これでいいですか、調査項目に対しての。

川原慎一委員長

これから先はまた後で話をします。

白石委員。

白石純一委員

利害関係者が漁協のみになっているわけですがけれども、そして、それ以外の利害関係者というのは存在しないかと言われると、私は、例えば観光関係の方であったり、それこそ市民も当然、利害関係になってくるとは思いますので、その辺りを調査する必要もあるのかなと思っています。それが1点。

2点目としては、漁協については、早ければ来年度をめどに県1漁協、県がまとまる、漁協がまとまって大きな一つの漁協になるという計画がございますので、そうした県漁連ですか。今後の検討、協議、どういう影響があるのか、そうしたところも一つの課題になるのかなあというふうに思っております。

川原慎一委員長

大田委員。

大田基次委員

8月18日に勉強会があるということだったんですけれども、ひょっとしたら我々は傍聴ができないと、そういうような感じなんですけれども、やっぱり1人1人がよく勉強していただくうちゅうのが大事だと思いますので、この勉強会も年に1回とか2回じゃなくて、どんどんどんどん数を増やしてもらって、そして時には我々も参加させてもらって、みんなの心を一つにしていくのが重要かなと思います。

利害関係者としては、阿久根市にとっては大変な収入のある件ですから、市民全部が利害関係者、その中でも、漁民の方々は1番自分の仕事に直接関係するということでございますので、やっぱり勉強会をより多く開くっていうのが大事かなというふうに思います。

川原慎一委員長

ありがとうございます。

それでは、最後に私も考え述べさせていただきます。

竹之内和満副委員長

それでは、暫時委員長の職務を行います。

川原慎一委員の発言を許します。

川原慎一委員

今所管課のお話を聞かせていただきました。

これから勉強会をしていくこと等もございました。ここに漁協を交えてやるということは、大変大きな進歩であったかなというふうにも考えましたが、やはりできた後にどうなのかというところを、漁業者も非常に心配しておられるというふうにもお聞きしますので、ここはやはり、勉強会というものも含め私たちがしっかりと、この可能性というものをしっかり市

民にも御説明できるような形をとっていくということを、この所管課の説明を聞いて非常に感じたところでしたので、ここを私たち自身もやっていくべきかなというふうに感じたところでした。

竹之内和満副委員長

川原委員の意見が終わりましたので、委員長の職務を川原委員長と交代いたします。

川原慎一委員長

それでは、各委員のお考えを基に、今回の所管事務調査で主な課題として調査を進めていくか整理したいと思います。

〔上協議会事務局次長兼議事係長「私も発言させていただいていいですか」と呼ぶ〕

上協議会事務局次長兼議事係長

今、所管課の説明と質疑応答を伺っておりまして、漁業者には所管課が説明会を、今まで県を中心にされていらっしゃって、今回も8月にされると。ただそれは漁業者中心への説明だというのが一つと、前回、風力発電の推進に関する陳情が上がったときの審査は、この委員構成になる前の委員会で審査をされていらっしゃるという状況を踏まえて、今、皆さんの御発言を伺っておりますと、委員会自体も、この洋上風力発電に関する手続を定めた海域利用法というのがございますけれども、海域利用法の制度の内容を少し御理解いただく必要があるのかなあと感じたところです。

例えば、白石委員の利害関係者がどの範囲かということも、海域利用法の中で、ある程度国が考え方を示しておりまして、段階に応じて、木下委員が地域に手を上げるべきだとかということも、その海域利用法の制度の中の段階の一つですので、その段階を踏んでいくごとにどういった方々の意見を聞いて、どう合意形成をして、洋上風力発電を可とするのか不可とするのかというのを判断するんだという国の法律の制度の中身を改めて知っていただくのも一つかなと、今話を伺っていて思ったところです。

川原慎一委員長

ただいま、次長含めそれぞれの委員のお考えを基に所管事務調査で主な課題として調査を進めていくか、整理したいと思います。

なお、ここで整理した課題について、それを解決するためにはどのような施策の展開や事務事業が必要か、先進事例を視察するなど、調査を進めていこうと思っております。

ここで、課題整理のための討議を行います。

ただいま、それぞれの委員が御発言いただいたことを踏まえ、どのようなことを課題とすべきか、皆様に議論していただきます。

それでは、御意見など御発言をお願いします。

討議です。

〔「順番関係なし」と呼ぶ者あり〕

はい、御発言を。

木下孝行委員

一応視察研修にやっぱり行ってですね、その過程、海域利用法も含めてですね、ネットで見れば皆さんもすぐ調べられるんですけども、一応そういう話も含めて視察先で確認も取れるし、その海域利用法の中の区分に、直接利害関係者、先ほど次長が言ったみたいに利害関係者、また関係者の区分がはっきりと確認ができると思うんですね。

だから私の知ってる限り、直接利害関係者は漁業関係者、その他商工業を含めた人たちは

利害関係者というその区分に多分なってるだろうと思っておりますし、そこはまた視察先で確認もできるだろうと思うし、1番大事なのはやはり過程ですよ、いわゆる今現在、組合長が替わって、前の組合長はもう絶対反対の立場だったけど、新しい組合長はもう前向きに考えているということも私も確認をしておりますし、今後どのようにまた直接関係者である漁協との関係性、そしてまた利害関係者である商工業者を初めとする市民の皆さんにどのような説明をしていったかも、また視察先でそのような話も十分聞けるわけで、まずは情報提供に持っていくためのその過程を十分皆さんが理解して、そして誰に聞かれても説明ができるような、そういう知識を持つべきだろうと思うんで、そういう意味で視察研修に行くべきということで、自分では結論づけております。

竹之内和満委員

この洋上風力発電については、昨年度の総務文教委員会から引き続きやっておりますので、昨年度と同じ方は理解しているのは大変だと思いますが、自分なんかも含めて、やっぱり理解が足りない部分があるかなというふうに思います。

先ほど次長からありました国の制度を理解というのを、できたら事前に何らかの研修、勉強会、研修というか勉強会なりしてもらってから行ったほうが理解しやすいかなあというふうに思います。

当然視察に行くのが前提ではあった上での制度の理解の勉強会というものが欲しいかなというふうに思います。

川原慎一委員長

ほかにございませんか。

〔木下孝行委員「ちょっと休憩入れてください」と呼ぶ〕
暫時休憩に入ります。

(休憩 午後3時～午後3時2分)

川原慎一委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開いたします。

牟田学委員

今年やったかな、去年やったかな。NHKの特集で、五島列島の風力発電のテレビがあったんですけども、その中で、どういう過程で漁業者が賛成に回ったか。そして、賛成した後は、工事が始まって、浮力式だったと思いますけれども、漁礁ができた。その後に風力発電の棟をつくる工場もその島に造って、そこで組立てをして建てたという一連の流れがありました。

あれを見ればいろんな過程っていいですか、それが分かってくると思うんですよ。

だから、それが、どこかに残ってると思うんだけど、そういうのを見て、勉強会というかそれも、いいですし、そこ辺りが、そのあれがあればいいんですけども、私はあれを見て、これ絶対プラスやなあと、漁業者に対してもですよっていう感じがありましたので、そういうのが残っていればですね、そういうのも見て、本当は、所管事務調査もそこに行きたいんですけども。

ということです。

〔木下孝行委員「そこは候補地に上げてあつてな。候補地に五島と西海市を」と呼ぶ〕

川原慎一委員長

ほかに討議ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、議論といいますか、お話いただいたことについて整理をしたいと思います。

これから決める視察先で情報提供に至った経緯等を確認するのがいいのではないかな。理解が足りない部分の勉強会が必要である。これはもう視察を前提として、勉強会后、視察に向くべきではないかという御意見。

五島の風力発電に関してテレビを見た、そういったものがあれば資料としてこの委員会で見て勉強すべきではないかという御意見がございました。

あと、次長のほうから、手続上どういうふうなものを踏んで行くってところを学ぶといますか、私たち委員もしっかり分かっておいていくべきではないかという御意見もございました。

こういった課題があるというふうに考えるんですが、これについての調査を進めていくべきだと思うんですが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。

次に、ただいま整理しました課題解決のためにどのような調査を行うか、また協議を行うか御提案などがありましたら御発言をお願いします。

これに関しては、洋上風力の視察の御意見、洋上風力に関する参考人を呼ぶ意見等々もあると思いますので、その辺りも含めまして、御発言をお願いしたいと思います。

木下孝行委員

いやもう何か回りくどい話ばかりしてるような感じで、視察にはもう行くという方向で皆さんは認識しているものだと思いますので、もうひとつ検討の、候補地を決定するような方向で話を進めてもらってもいいのかなと思いますし、参考人を呼ぶというか、現在もう既に執行部の市長のほうが、もう前向きに情報提供に向けて、利害関係者の漁協とも直接対話をしながら進めていくという方向に今きてる状態でありますので、市民に対したり、関係者いわゆる商工業者もなんですかね、阿久根市には再生可能エネルギーの推進協議会というのも民間団体で立ち上げておりますし、そういう人たちの意見を聞くのも構わんし、また今後の、先ほど所管課の話もあったように、勉強会、説明会をやっぴりいかに頻繁に今後行っていくかっていうのが1番大事になるんじゃないかなと思うんで、そっちの話をしていたほうがいいと思いますけどね。

白石純一委員

私も前期はこの委員会ではなかったもので、皆さん、前期もおられた方に比べるとまだ勉強不足だと思います。そういう委員もおられますので、やはり我々の知識もつけなければいけないということを考えると、視察を前提云々という前に、私は、自分たちで勉強する、あるいは参考人を呼び出して勉強する、その延長線上で、視察が必要であれば、視察をするということなのかなと、私は思います。

竹之内和満委員

その勉強会なんですが、参考人って、どのように参考人を呼ぶのか。例えば相当遠いところから呼ぶという方法あるし、近場でってあるんですが、自分はやっぱり視察を前提とすべきかなと思いますので、そういう制度の理解をしている人、例えば企画推進課長でできない

とかであるとか、そういうふうに思いますので、できる限り身近な人から聞くのも一つの方法かなというふうに思います。

そうした上で、視察を行う。

視察ありき、やっぱり視察に行かないとですね、やっぱり分からないところが相当ありますので、勉強会だけでは分からないし、実際に見て、なおかつ、理解も深くなりますので、視察前提の勉強会はしてほしいかなというふうに思います。

木下孝行委員

この洋上風力に関しては、令和4年だったかな、いわゆる今言う洋上風力の推進協議会というところから陳情が上がって、それを議会は示さして、県に対して意見書まで出してるわけで、そのあと、委員会の中で推進ということで、基本的には動いてきているわけですよ。

だから、今回もその要望に上げてるのは、要望というか今日調査事項に挙げての流れなんですよ。

だから今、竹之内委員が言ったみたいに、関係者という流れで誰を呼ぶかってなれば、もう直接関係事業者である漁協、あとは協議会を立ち上げているその協議会のメンバー、ここしかないわけですよ。

考え方とすれば、あとは市が、我々の議連も含めてですけど、今後いかにこう、関係者、商工業者をはじめ市民、いろんな形でこの仕掛けの勉強会をしていって、そのあとに各団体なんかの意見を聞くとかいうことはあり得る、可能性は、私はあると思うけど、その前に呼んで話を聞くと、まだその内容を把握してない人たちに意見を聞くというのは余りなじまない話かなあというふうには思いますね。

だから、所管調査は所管調査でしっかりして、その過程も、やっぱりそこで勉強をしながら、我々も対応を考えていくべきだろうと思いますよ。

白石純一委員

私はですね、その勉強会の中で参考人として来ていただくのにふさわしいのは、恐らく県の当事者ではないかなあと 생각합니다。多分市の担当者は、まだそれほど深く専門的ではないのかなと、県の専門部署、担当部署のほうがより専門知識をお持ちじゃないかなあと 思いますので、もし参考人としてお呼びするのであれば、また、遠くからでもないということであれば、県の担当者が候補者の1人かなと思っております。

〔木下孝行委員「ちょっと休憩」と呼ぶ〕

川原慎一委員長

暫時休憩します。

(休憩 午後3時13分～午後3時24分)

川原慎一委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開します。

ただいま視察を行いたいとの御意見がございました。

次は視察を行うこととしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

〔発言する者あり〕

それでは、委員相互で資料の提供をして、それぞれ共有し、この洋上風力に対して勉強し

ていただくということで御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

視察については御異議なしとございましたので、そのように決しました。

それでは視察先について協議していただきます。

視察先の具体的な提案がありましたら御発言をお願いします。

牟田学委員

先ほども言いましたけれども、五島の、場所はちょっと分かりませんが、まず、浮体式、それと、その浮体式が今漁礁になっている。1番大事なのが商工業のためにということ。その近くの港で組立てをやってました。阿久根も一緒にいいと思うんですよね、あるから。そういうところを一連として調査をしたいと思っております。五島ですけれども場所がちょっと。

木下孝行委員

私は二つの地域、一つは九州で五島市と西海市。五島市はもう既に10何年前に実証実験を日本で1番最初にやったところで、1基浮体式を建設して、今それがもう市の持ち物になって、市民の電力会社になっております。そして新たに、今度は今、7基か8基建築中でございます。だからそこと、隣の、渡って、長崎本土ですけども、西海市が今、促進地域に指定されて、西海沖が公募に入る前ぐらいだと、確か、思います。そこを2か所合わせて視察ができたと思いますし、もしそこがなかなか視察の折り合いがつかない場合は、千葉県沖に銚子と九十九里とか、銚子の近くに2か所あるんですけど、そこを視察できればと思っております。

二つの場所ですね、長崎と千葉という形で、第1は長崎のほうです。もしそこが駄目なときは千葉でもと思っております。

竹之内和満委員

やはり予算の面もあるかなと思います。去年秋田に行っておりますので、だから本当近場の五島でそういうのが、西海市もですが、そういうのが見えるのであれば、割と近いほうがいいかなというふうには思います。

川原慎一委員長

休憩入ります。

(休憩 午後3時28分～午後3時36分)

川原慎一委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開します。

ただいま、五島市と西海市の視察の提案がございました。

それでは、ほかに御意見があれば。

牟田学委員

北九州の響灘の風力も調べてほしいなと思います。

川原慎一委員長

それではただいま、五島市、西海市、北九州市を視察したいとの御提案がございました。

ここに関しては、委員長に預らせていただいて、日程等も含め、皆さん方にまた御提案したいと思いますが、よろしいでしょうか。

御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めそのように決定しました。

○ 移住定住促進策について

川原慎一委員長

それでは、移住定住促進策を議題とします。

先ほど本市の現状について所管課から説明を受け、質疑をしました。

これを踏まえ、各委員に移住定住促進策について、どのような政策課題があるのか、あると考えられたか、ここで発表していただいて、それぞれのお考えを委員間で共有したいと思います。

それでは、それぞれ御発言をお願いします。

白石純一委員

先ほどちょっと申したんですけども、全ての自治体に移住定住をやろうとしています。その中でやっぱり実績が上がっている自治体のお話を聞き、見てみたいと思いますので、例えば鹿児島、それは鹿児島県でも十分ありうると思いますので、県内で先進地で特に実績が上がってるんですね、毎年、例えば人口比に対して、移住者Ⅰターン者Ⅱターン者がどれぐらいいるかという、数値が上がっている自治体に視察に行ければと、県内では思ってます。そして、県外で、私は興味を持っている。

これ日帰りでも県外。

川原慎一委員長

それはあとでいいです。場所については、あとでまたお願いします。

〔上協議会事務局次長兼議事係長「今、所管課の説明を受けて質疑をした上で、どんなことが阿久根市の施策として足りないのかというのを共有していただいて」と呼ぶ〕

牟田学委員

もう何年前か、もうその補助はやめたという話でした。200万円の補助金だったと思います。私も2件ほど、関わってはいませんが、ずっと最初から話を聞いております。そういったインパクトがある政策は、やはり続けていって欲しかったなあというふうに思っておりますし、また、いろんな制度を確認してですね、そういったインパクトのある施策も必要じゃないかなあというふうに思います。

木下孝行委員

私は、移住定住対策をしっかりと推進し、この問題をさらに前向きに捉えていくには、阿久根市の移住政策、定住政策をやっぱり、阿久根市というネームバリューはもっと表に出した形でみんなが見れるような環境を、SNSを使った環境をやっぱりやっていくべきだろうと思いますので、そういううまく時代の情報を駆使してやってる自治体があればそこを、できたら近場であればそこに勉強に行って、話も聞きたいと思ひますし、当然、移住定住対策には子育て対策等もどのようにやってるのかというのも非常に大きく関わってくるし、そのことにこれ、所管外になるかもしれませんが、そこも含めて聞けるようなところがあれば、そういうところも対象に入れていいのかなあというふうに思ひます。

竹之内和満委員

やはり結果を出してる自治体、それも継続的に結果を出してる自治体に行きたいと思ひます。

何がどう違うのか、金銭的なものなのか、金銭的以外の何かがあつてそういうふうに移住定住が継続されてある程度人数は確保しているのかということを知りたいと思いますので、まずそれを、どこかというのは、なかなか今分からないんですが、そういうところに行ってみたいと思っております。

川原慎一委員長

皆さん、もう問題はあるから先進地に視察に行こうということになってますけど、問題抽出です。

〔上協議会事務局次長兼議事係長「先ほど白石委員がおっしゃった。UとIの区分を分けずに施策を展開するのが問題なんじゃないかとか、委員長がおっしゃったIターンに対する支援が足りないんじゃないかとか、その辺を課題として挙げていただければと思いますが、先ほどのお話の中であった」と呼ぶ〕

川原慎一委員長

暫時休憩入ります。

(休憩 午後3時43分～午後3時44分)

川原慎一委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開します。

大田委員はございませんか。

大田基次委員

言わせないほうがいいと思います。

川原慎一委員長

いやどうぞ言ってください。

いいですか。

〔大田基次委員「いいです」と呼ぶ〕

それでは、私も述べさせていただきます。

竹之内和満副委員長

それでは、暫時委員長の職務を行います。

川原慎一委員の発言を許します。

川原慎一委員

やはりIターンUターンしてこられる方々に対する補助を含めたものがまだ手薄じゃないかなというのを感じたところでございましたので、そこに対して私たちも視察を含め考えていくべきと考えたところでございました。

竹之内和満副委員長

川原委員の意見が終わりましたので、委員長の職務を川原委員長と交代いたします。

川原慎一委員長

各委員のお考えを基に、今回の所管事務調査で、何を主な課題として調査を進めていくか整理したいと思います。

なお、ここで整理した課題について、それを解決するためにはどのような施策の展開や、事務事業が必要か、先進事例を視察するなど調査を進めていこうと思っております。

ここで課題整理のための討議を行います。

ただいま、それぞれの委員が御発言いただいたことを踏まえ、どのようなことを課題とすべきか、皆様に議論していただきます。

それでは御意見ををお願いします。

〔「今の議論で大体」と呼ぶ者あり〕

そうですね。先ほど、視察をするというのは皆さん方の御意見でございました。

以前行っていた事業で、これが継続していればよかったのという御意見が市民からあったということを含め、また、メディアを使ってこの阿久根市の宣伝、そういったものを含めた先進地がないのかというお話、子育て施策の先進地の学ぶ必要もあるのではないかという御意見。IターンUターンで帰ってくる方々への補助という部分の手助けも必要ではないかということでございました。

この課題があるとして調査を進めたいと思います。

これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。

次に、ただいま整理しました課題解決のために、どのような調査を行うか協議をお願いします。

この調査については、どのような調査、もう皆さん方、行政視察というのは前提であると思うのですが、ほかに御意見があれば、御提案があれば。

牟田学委員

先ほどの風力発電の調査もですけれども、場所場所がありますので、その近くで、移住に対して実績がある自治体があれば。そこ辺りは委員長のほうで探していただければというふうに思います。

川原慎一委員長

暫時休憩します。

(休憩 午後 3 時47分～午後 3 時58分)

川原慎一委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開します。

私もちょっと意見をいいですか。

竹之内和満副委員長

それでは、暫時委員長の職務を行います。

川原慎一委員の発言を許します。

川原慎一委員

地域おこし協力隊の方が今、移住定住に関して頑張っておられるということもお聞きしましたので、その方を参考人として招致したいというふうな考えもございますので、それを御意見とさせていただきたいと思います。

竹之内和満副委員長

川原委員の意見が終わりましたので、委員長の職務を川原委員長と交代いたします。

川原慎一委員長

ただいま、視察を行いたいとの御意見と参考人を招致したいとの御意見がございました。

〔「視察先をどこにするかというのは聞かなくていいんですか」と呼ぶ者あり〕

それでは、視察先について、皆さん方、御希望があれば、御意見をいただきたいと思います。

白石純一委員

移住に力を入れて実績も上がっている。

県内では、そうですね、

すいません、まだちょっと詳しく調べてないんですけども、県外で仮に1泊、日帰りでも行けるんじゃないかと思ってたところは天草市なんですが、天草市は、移住の相談窓口がお仕事も世話するようなことまでやるワンストップで、移住に興味のある方に対して非常に、それを市の窓口か、あるいは市の外郭団体が窓口になって、とにかくワンストップでそういう移住のことを積極的にやられているというところがありました。

数年前だったので、ちょっともう一度調べてみましたら、それも一つの、そちらも一つの候補地かなと思っています。

木下孝行委員

もう私は、移住定住に関して自分のまちの名前、ネームバリューをものすごく上げる努力をしている自治体、そして、それから、移住定住に関する補助金等とか子育てを含めたそういう施策を積極的にやって実績を上げている自治体ということで、できたら先ほど話もありましたように、首都圏じゃなくて、阿久根と類似するような、ちょっと離れたところで実績を上げているところを見つけてもらいたいなというふうに。

候補地としてはありません。

〔白石純一委員「すみません、言い忘れました」と呼ぶ〕

白石純一委員

先ほど県内ではと、1か所、県内でですね、興味を持ってるのは、先ほど申した、昨日今日発表された住みやすいまちランキングのベスト10に入っていたのが大崎町でした。大崎町、町では大崎町ぐらいだったんですけども、よく皆さん聞いたことあると思いますけれども、リサイクルの取組とかもあります。また、私の知っているある議員さんで、東京から、やはり移住してきて、今、議員をされてる若い女性の方もおられます。大崎町も一つの候補先かなと思っております。

川原慎一委員長

ほかにございませんか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

じゃあ私からいいですか。

竹之内和満副委員長

それでは暫時委員長の職務を行います。

川原慎一委員の発言を許します。

川原慎一委員

私は、前回の委員会のときに、五島市とか、そういったお話がございまして、五島市の移住定住に関して、また長崎県内で移住定住に対して先進的にやっているところというものもちょっと調べさせていただきまして、五島市は非常に類似したところが阿久根市ともございまして、移住定住に関しても非常に頑張っているところとございました。

あと、東彼杵も、ここ町ですが、人口に関しては、うちよりも半分ぐらいなんですけれど

も、子育てに関する施策であったり、もちろん移住、IターンUターンに関するものであったりとか、非常に割と手厚い、子育てに関して、特に教育の部分も手厚くやっているとありましたので、長崎県にどうせ飛ぶようなことがあれば、この二つは候補に皆さん方に御提案できたらなというふうに考えておりましたので、御紹介させていただきました。

竹之内和満副委員長

川原委員の意見が終わりましたので、委員長の職務を川原委員長と交代いたします。

川原慎一委員長

ただいま、視察先に関しまして、天草市、大崎町、五島市、東彼杵町が出ました。

ここに関しても、先ほどの洋上風力のとき同様に、委員長にお預けいただきまして、調べた形でまた皆さん方にお話をさせていただけたらと思いますが、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認め、そのように決定いたしました。

参考人についても、協力隊の方を招聘するという御意見でございますが、ここに関しても御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認め、そのように決定しました。

日程等々については、委員長において調整をいたしますので、御一任をいただきたいと思います。

上協議会事務局次長兼議事係長

地域おこし協力隊の出席要請に関しては、閉会中とかでもいいですか。視察の前とかのほうがいいのかなという感じを受けておりますが、いかがでしょうか。

〔木下孝行委員「いつでもいいですよ」と呼ぶ〕

委員長に一任ということで。

川原慎一委員長

参考人招致については、閉会中ではございますが、その中でやってまいりたいと思いますので、御一任いただきたいと思います。

御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認め、そのように決定をしました。

それでは、本日本日予定していた事項は以上でございます。

協議の中で御了承いただきましたが、本日決定した事項、次の委員会の開催時期については委員長に御一任願います。

なお、視察の日程については、議会の予定、議長の公務を優先的に考慮して調整しますので、御了承くださるようお願いいたします。

以上で本日の委員会を散会します。

(散会 午後4時6分)

総務文教委員会委員長 川 原 慎 一